

長崎の鼻

「長崎の鼻」とは、屋島の最北端の地名である。瀬戸内海に突き出た短い岬で、人里離れた白砂の海水浴場のそばにある。長崎の鼻から遊鶴亭という展望台までは、約 30 分の遊歩道が整備されている。多くの角度から屋島の頂上は広い台地のように見えるが、長崎の鼻から見ると「遊鶴亭」は尖った山の頂上にあるように見える。

1853 年、アメリカが日本に西洋貿易の開放を要求した後、徳川幕府は日本の海防の近代化を決定した。1863 年、幕府は高松藩主に命じて、高松港を守るための砲台を長崎の鼻に作らせた。3 階建てのこの砲台には 6 門の大砲が搭載されていた。施設自体はなくなってしまったが、砲台を置いていた土塁は今も残っている。